

授業のねらい

- バイ菌やウイルスなどの病原体が身体に侵入することを防ぐために、のどや鼻が果たしている役割について理解することができる。
- のどの健康を保つために、どのような生活を心がければよいかを理解することができる。

授業展開 45分

| 時間 | 学習活動と内容(○活動・反応) | 指導上の留意点 |
|-----|---|--|
| 2分 | <p>のどの調子が良くないと感じるときはどのようなときか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のどが痛い ・腫れた感じがする ・声がかすれる ・たんが出る ・咳が出る 等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習はのどに関係する内容であり、この後にアニメを見ることを伝える。 |
| 6分 | <p>動画1(4分39秒)を視聴し、アニメの内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つばささんがのどに異変を感じる。 ・小鳥のボーチェが帽子を取って森の中につばさを連れて行く。 ・ノードン先生に診察を受ける。 ・つばささんはのどに悪いことをしていないにもかかわらず、なぜのどが不調になったかを不思議がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アニメを視聴した後に登場人物や内容を想起させ、話の流れを確認していく。 ・「つばささんがのどに悪いことをしていない」という発言に対する感想を尋ねながら、のどにとって良くないことを見つける学習活動につなげていくようにする。 ・動画の再生がおわったら静止画①を表示する。 |
| 10分 | <p>つばささんの生活の様子を見て、のどにとって良くない生活が何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配布し、そこに個々の考えを書き込む。(ワークシート①) ○グループで、のどにとって良くない生活を話し合い、その結果をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入は時間短縮のため箇条書きで短く書かせるようにする。 ・各グループで話し合った内容をまとめる方法は実態に応じて、ホワイトボードやタブレット、模造紙等を選択する。 |
| 5分 | <p>グループで話し合った、のどに良くない生活を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、学級全体に発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで発表された内容をもとにして、のどに良くない生活にはどのようなものがあるかを板書する等して整理していき、動画2につなげていく。 |
| 5分 | <p>動画2(4分1秒)を見て、発表内容が合ってるかどうかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①口呼吸 ②水分をとらない ③乾燥した場所にいる ④のどを冷やす ⑤大声を出す ⑥生活リズム | <ul style="list-style-type: none"> ・動画2を見終わった後に、板書した内容と照らし合わせていく。その際に、不足している点や誤っている点については加筆修正をしていく。 ・動画の再生がおわったら静止画②を表示する。 |

| 時間 | 学習活動と内容(○活動・反応) | 指導上の留意点 |
|----|---|--|
| 8分 | <p>のどにやさしい生活について考える。</p> <p>○個々の考えをワークシートに書き込む。(ワークシート②)</p> <p>○個々に考えた内容を全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼻で呼吸する(①) ・水分をこまめにとる(②) ・加湿器等を使って、部屋を乾燥させないようにする(③) ・冷たい物を飲み過ぎる等して、のどを冷やさない(④) ・大声を出しすぎない(⑤) ・早寝早起きを心がける(⑥) | <ul style="list-style-type: none"> ・のどにやさしい生活が思い浮かばない子どもには、のどに良くない生活を良い方に変えたとしたらどうすればよいかというヒントを与える。 ・(①)～(⑥)については、「学習活動と内容(動画2を見て)」の学習内容と対応している。 |
| 6分 | <p>動画3(2分25秒)を視聴し、専門家の解説を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイ菌やウイルスの脅威から身体を守るために、鼻にこれらを除去するフィルターがあることや、のどの線毛の働きで大玉送りのようにこれらが肺に入り込まない身体の仕組みがある。 ・線毛がしっかり働くためには潤いが大切であり、こまめに水分をとったり、のど飴やトローチをなめるのも有効。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画3は専門家の先生のお話が終わった後にアニメのエンディングになるが、残りの授業時間や子どもの実態に応じて、エンディングの前に動画をストップして専門家の解説内容を簡単にまとめてもよい。 |
| 3分 | <p>授業の感想を書き、各自の感想を交流する。(ワークシート③)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・交流の仕方としては全体に発表する方法だけでなく、タブレットに感想を入力して、意見を読み合う方法もある。 |

発展教材

口呼吸テスト

目的 実験を通して口呼吸になっていないかをチェックし、鼻呼吸を意識させるため。

用意する物 透明なコップ(1人1つ) ※息の曇りを見ることができるもの。

実施時期 授業終了後すぐに実施する、もしくは給食後の歯磨きのタイミングに合わせるのもよい。また、家庭学習にして保護者と一緒に実施するのもよい。

実施方法

- ①透明なコップを鼻の下に当て、10秒間自然に呼吸をする。(顔とコップの間は少しだけ開ける)
- ②ガラスが曇れば口呼吸をしていることになる。テストの結果、口呼吸になっているのならば鼻呼吸を意識させる。

